



世界遺産に登録されたら資産をはじめ、町内には数多くの史跡や文化財を有している。これらを次の世代に継承することが大切である。



1. 国内の世界遺産登録地の関係者など約200人が出席した世界遺産条約採択40周年記念開幕式典
2. 平泉の価値について講演する山折名誉教授

40周年記念開幕式典

授与式終了後、ベリーノホテル一関で外務省主催によるユネスコ世界遺産条約採択40周年記念開幕式典が開かれました。式典には、同日開催された「平泉」への世界遺産認定書授与式出席者に加え、国内の世界遺産登録地の関係者など約200人が出席。

ユネスコのボコバ事務局長による「日本における世界遺産条約40周年開幕宣言」に引き続き、山折哲雄国際日本文化研究センター名誉教授による基調講演と国内外の専門家による「災害と遺産」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。

基調講演では国際日本文化研究センターの山折さんが「廃墟から遺産へ―その歴史を守っていくために」と題して講演。「平泉が継承してきた遺産は被災地の復興と未来に向けて意味、価値を持っている」と平泉の価値について述べました。パネルディスカッションでは、国内外の有識者5人が「災害と遺産」をテーマに意見を交換。これまでの経験を国際的に共有し、協力していくことが災害から遺産を守るために必要と強調していました。

ユネスコ事務局長 イリーナ・ボコバ



世界遺産登録は特別なもの

ユネスコの世界遺産のリストに正式に登録されるといふのは、顕著な普遍的な価値を持つ遺産、これをたたえるものであり非常に特別なものである。平泉の文化遺産は地上における楽園のビジョンによって生み出されている。それは永遠性、永久性とすべての相互関連性を提示しているものである。世界遺産に登録されることは認定ラベルをもらうことではなく、将来の世代に伝えていくことを示すことである。

岩手県知事 達増拓也



震災復興に大きな 勇気と誇りを与えた

平泉の文化遺産は2001年の暫定リスト登録以来、長い道のりを経て登録が実現した。このことは震災・津波から復興を目指す中で岩手、東北に大きな勇気と誇りを与えてくれた。自然への畏敬の念を忘れず、人間の尊厳を大切にしようという考え方は震災に見舞われた東北の復興の理念と共通している。

これからも皆さんとともに平泉を将来にわたって守り伝えていき、その理念を胸に復興に取り組んでいく。

平泉町長 菅原正義



普遍的な価値を 世界に発信

平泉の文化遺産が戦争や略奪の産物でなく、絶対の平和・平等主義に基づいて創造された平和の遺産であることを誇りにしている。

世界遺産登録はゴールではなくスタート。この素晴らしい遺産を、確実に未来へ引き継いでいき、その重大な使命をしっかりと自覚して、資産のさらなる保護保全に努め、皆さんとともに平泉の顕著な普遍的価値を、広く世界に発信していきたい。